

京都教区時報

第190号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上の河原町カトリック会館5F



平安我等 包む様
和らぎ世界 包む様
へん容山を 照らす様
のそみを清く 涼す様
努力を我等 惜しむまで
力の限り 励みいて

共に歩まん この日々を
にんたい深く 手を取りて
しあわせを敷く 次の世に
てんの祝福 豊かなれ

M T

平和を求む 人のあり
和解を求む 人のあり
へん化を求む 人のあり
のこりなく与う 人のあり
祈りて胸打つ 人のあり
りそは是今だ 遠けれど
歩みは険し 十字架の
みに帶し傷の 痛みあり
平和への 歩みはけわし
和をなごやかと おもいたる
へんけん我等 殺しいて
のに咲く花も 踏みにじる
歩みは険し 十字架の
みに帶し傷の 痛みあり

痛みの共感

●痛みの共感を 「痛みの共感」—sympathyで

「心の深處」

エスが貧しい人々の側から神殿で
行われていることを見ておられる
からではないだろうか。

●神殿の出来事を思い起こそう

立場に置かれている人々の側に立つことによつて、わたしたちは今まで体験したことのない多くのことを教えられ、より一層イエスのみ心に導き入れられていく。ここ2年近く滯日外国人出稼ぎ労働者特にタイ人と歩みをともにしながら、イエスのみことばに照らし合わせて感じた一、二のことを書い

「父の家、神の家」である神殿は、「安息日」と密接な関係をもつており、「祈りの家」であるとともに、「病人の癒しの場」でもある（ヨハネ5）。その神殿の境内で商売の取引きが行われていい。神殿に供える動物、神殿税のために必要な外貨の交換。その取引きに伴う騒音、ごまかし、祭りを利用して貧しい人々から搾取す

体（イニリント3・10—11） 特にイエスがご自身を同化されたもつとも「小さな人々」（マタイ25・35—36、40）、弱い立場に置かれている人々にはかならない。それはまた、神の住まいである宇宙そのものもある。止るところを知らない金銭欲による富の独占と搾取、権力の乱用による抑圧と人間の奴隸化、飽くことを知らない情欲によって歪められた人間関係、

それは立ち向かう勇気をもつていいだろうか？ 神の似姿である人間を、人とは思えないほど醜い姿に変えてしまう悪の力に心傷つき、人間に命を回復させるために情熱を傾ける御父のみ心。自ら門外に追い出され、そこで門外に追いやられている人々と深く連帯し、十
字架上で引き裂かれながら、その無力さの極みにおいて罪と死に打ち勝つた「慈悲のしるし」イエ

●勇氣・連帶

友として、兄弟として分かち合
い、奉仕し合い、尊重し合うこと
ではなく、貧しい人々、疎外さ
れている人々、特に第三世界の兄
弟たちを生産力、性産業のために
商品化している日本社会の現実を

無視と疎外、人間性の破壊……。
その惡の手は神の愛の賜物である
大自然にまで及ぶ。

う熱い待望」のうちに、神が望まれる「真の安息」、すべての人があ
神の子、兄弟として生きる新しい
世界の建設のために、人々とともに
取り組む力、真理の靈、聖靈の
光を切に祈り求めたい。

それらの動物をことごとく追い出しつゝ、両替屋の金を散し、その台をひっくり返すところまでいく。

この神殿の中における出来事は、かつてと同じく、今日も繰り返されている。父の家である神殿とは、「肉となつてわたしたちのうちに住まわれた」イエスご自身の体であるとともに、わたしたち自身の体（Iコリント31・16—17）、特にイエスがご自身を同化されたものとも「小さな人々」（マタイ25・35—36、40）、弱い立場に置かれている人々にほかならない。それはまた、神の住まいである宇宙そのものもある。止るところを知らない金銭欲による富の独占と搾取、権力の乱用による抑圧と人間の奴隸化、飽くことを知らない情欲によって歪められた人間関係、無視と疎外、人間性の破壊……。その悪の手は神の愛の賜物である大自然にまで及ぶ。

●勇気・連帯

友として、兄弟として分かち合ひ、奉仕し合い、尊重し合うことではなく、貧しい人々、疎外されている人々、特に第三世界の兄弟たちを生産力、性産業のために商品化している日本社会の現実を、

わたしたちはどのように受けとめているのだろうか？わたしたちキリスト者は、この人々の痛みをどうまで知つておられるのだろうか？このような痛みと苦悩を生み出す社会構造的な罪と悪に対し、また無言のうちにそれを妥協し、加担している自分自身に対して、イエスと同じような激しい憤りを感じ、それに立ち向かう勇気をもつていいだろ？か？神の似姿である人間を、人とは思えないほど醜い姿に変えてしまう悪の力に心傷つき、人間に命を回復させるために情熱を傾ける御父のみ心。自ら門外に追い出され、そこで門外に追いやりられている人々と深く連帯し、十字架上で引き裂かれてながら、その無力さの極みにおいて罪と死に打ち勝つた「逆らいのしるし」イエスに従つて生きることこそ、わたしたちキリスト者の使命ではないだろうか？僕イエスにじつと目を注ぎながら、「全キリストの全き完成が実現されるのをみたいといふ熱い待望」のうちに、神が望まれる「真の安息」、すべての人間の子、兄弟として生きる新しい世界の建設のために、人々とともに取り組む力、真理の靈、聖靈の光を切に祈り求めたい。

手話教室のごあんない

カトリック聴覚障害者の会

手話教室は、91年1月から始まりました。月3回、火曜日に西院カトリック会館で行なわれています。10時を過ぎると、いろいろな地域から参加者の方が集まつて来られます。他の活動されている方も多く、貴重な時間を有効に使われているのに感心します。

「お早ようございます。お元気でしたか?」手話での挨拶。手の動きの早い聴覚障害のお話しを読み取ろうと、一生懸命「目」(手話は見る言葉です)を傾けます。初めて手話を勉強する方、20年以上も通訳活動をされている方、経験は様々ですが、聴覚障害の方のハンディーを理解し、少しでも援助できればという想いは同じです。

最近の学習では、中級のテキストを使っています。指導者は、聴障者の皆さん(4人)です。それぞれ手話の表わし方が違うこともあります。年代による手話も学ぶことができます。地名、反対語等単語

の習得も混じえながら、和やかな雰囲気で進んでいきます。又、月に一回、交流会(ゲームやクイズ、ハイキング等)もします。月ごとにペアを組んで担当者が計画を立てます。毎月変わることなので、みんな、楽しみにしています。

5月の交流ではフェエスタフェ

タフエスターに参加するための準備をしました。全員が手分けしてボスター等を作り、フェエスタフェタフエスターに臨みました。当日でのアピール、バザーも成功し、力をつけずに、あらゆる場に溶け込んで、イエズス・キリストの福音を伝えるという全く新しい時代状況に即した修道会です。その活動は現在世界30ヶ国で約2千4百人の会員が私服でどのような場でも入り込み福音を言葉と行いで証しています。

マリアの御心会

多田千寿子 大原悦子

●はじめまして

山々に囲まれ空気のよい草津へ京都教区立幼稚園(モンテソーリー教育)を頼まれ、千葉の茂原と東京よりやってきました。幼な子の美しい心や、生かして下さる創り主をたたえ、神の国のために草津

●共に生きる道を捜して

日本では現在20人(うち3人はカトリック幼稚園責任者として、幼稚教育にたずさわっているのは多田千寿子です。また、小教区の手伝いをしているのは大原悦子です。アブラハムが神の呼びかけに応え新しい地に行つたように私たちも新しい地で人々の中に溶け込み、福音を言葉と行いで証して生きたいと願っています。京都教区に来たのは始めてです。わからない事が多いと思いますので、ご指導(創立者のことば)マリア様の御

●マリアの御心会とは

マリアの御心会は1790年にフランス革命という歴史の大転換期にクロリビエル神父(イエズス会)とアデライド・ド・シセが神からいただいた2つのインスピレーションによって創立されました。カトリック弾圧の中で、修道者とわかるどんな外的なしるしもつけずに、あらゆる場に溶け込んで、イエズス・キリストの福音を伝えるという全く新しい時代状況に即した修道会です。その活動は現在世界30ヶ国で約2千4百人の会員が私服でどのような場でも入り込み福音を言葉と行いで証しています。

●マリアの御心会とは

マリアの御心会は1790年にフランス革命という歴史の大転換期にクロリビエル神父(イエズス会)とアデライド・ド・シセが神からいただいた2つのインスピレーションによって創立されました。カトリック弾圧の中で、修道者とわかるどんな外的なしるしもつけずに、あらゆる場に溶け込んで、イエズス・キリストの福音を伝えるという全く新しい時代状況に即した修道会です。その活動は現在世界30ヶ国で約2千4百人の会員が私服でどのような場でも入り込み福音を言葉と行いで証しています。

●共に生きる道を捜して

日本では現在20人(うち3人はカトリック幼稚園責任者として、幼稚教育にたずさわっているのは多田千寿子です。また、小教区の手伝いをしているのは大原悦子です。アブラハムが神の呼びかけに応え新しい地に行つたように私たちも新しい地で人々の中に溶け込み、福音を言葉と行いで証して生きたいと願っています。京都教区に来たのは始めてです。わからない事が多いと思いますので、ご指導(創立者のことば)マリア様の御

保護のもとに!

「マリアの母なる心にならって会員は全世界を抱くでしょう」

カトリック三重婦人大会

力トリック四日市教会 婦人部

白峰圭子

になりました。県内百余名の婦人の方々が一堂に集い、大会のテーマは、ナイス2のテーマに沿つて「愛はまず家庭から—女性の使命」（これはマザー・テレサの言葉から借用させていただきました。）午前の部は、家庭の為に、ささげるミサではじまり、その中での共同祈願も各小教区の婦人代表がそれぞれの立場から家庭の為に祈りました。ミサの後、参加者全員で写真撮影を終え、一同でなごやかに分かち合いをかねて昼食をいただきました。

午後の部は、テーマにちなんだ講演、講師は、長崎県出身、大阪在住の小説家、今井美沙子先生でした。講師の依頼にあたっては、主任司祭と相談の上、やはり「家



去る、5月9日、三重県カトリック信徒連絡協議会主催のカトリック婦人大会が開催されました。これは、隔年おきに、三重県内の小教区が持ち回りで行われるもので、今回は、四日市教会が担当

「家庭」がテーマなので、現在、信考であり、妻であり、母であり尚且つ社会とのつながりのある方といふ事で、今井先生にお願いしまして、たところ、快くお引き受けくださいました。

先生のお話は、郷里五島のお話が主で、ご先祖のこと、ご両親のこと、とりわけ、お母様のことでは涙あり、笑いありで、午後の講演にもかかわらず、眠気ひとつ催せぬ、あつという間に時がすぎてしましました。先生のご本でも、ご存知の方もあろうかと思いますが

の足元をみつめ、あるがままをされ
さまにささげ、ある時はなやみ苦
しみ、ある時は喜びその都度、祈
りとともに神に助けを求める、前向
きに明るく生きてこそ、家庭の真
の喜びがあるのでないかと思いま
した。

侍者默想会に参加して

山口雅広

去る4月24日から2泊で、中学・高校生を対象にした侍者黙想会が、衣笠教会で行なわれました。

ティータイムは、参加者がそれぞれ自由にお話しし、ご自分のご家庭のお話、マリアさまのお話、お年寄りの経験談等、いろいろ出てくるうちに時がたち、最後は全員で「アーメンハレルヤ」の大合唱の後、それぞれの家路にいそぎました。大会を終えて思いますことは、子育て真っ最中とか、家庭の中で諸問題に取り組んで戦苦闘中の方々の参加が少ないので、今後の課題ではないかと思います。

ですから、この2日間で、沢山のシスターに会い、色々な事を教えて頂き、共に祈らせて頂けた事は、非常に自分という弱い人間にとつては、プラスになりました。特に、大沈黙や、聖書の深読には深く考えさせられました。

又、今まで知り合えなかつた同年代の人とも、友人になれてよかったです。

侍者默想会から

1992年度カトリック京都司教区経常収支報告

経常収支

1. 宗教活動収入	22,019,069
2. 寄付金収入	6,660,000
3. 補助金収入	5,240,000
4. 賦課金収入	29,945,780
収入合計	63,864,849
収支差額	30,810,398
計	94,675,247

経常支出

1. 宗教活動支出	31,238,197
2. 寄付金支出	20,000
3. 諸団体分担金支出	4,468,800
4. 事業活動費支出	1,300,000
5. 人件費支出	43,554,953
6. 事務管理費	14,093,297
支出合計	94,675,247
計	94,675,247

1992年度京都教区収支報告について

- 宗教活動収入には、司教司牧収入、司祭司牧収入の教区への納付金とローマ教皇庁、日本の教会への通り抜け献金が含まれています。
- 賦課金収入には、教区内各小教区、修道会からの賦課金の献金と司教・司祭が教区の意向で捧げるミサの献金が含まれています。
- 宗教活動支出は、祭儀費、神学生教育養成費、教区事業補助金、宣教活動補助金、通り抜け献金などが含まれています。
- 諸団体分担金支出は、中央協議会教区分担金、アジア司教協議会への司教分担金などが含まれています。
- 人件費支出の中には、教区でまとめて職員としている方々、司祭への給料計算分も含まれています。

教区の主たる経常収支は、司教・司祭の司牧収入から納付金と各小教区・修道会からの賦課金として納付されるものとがあります。

収支差額の不足分は教区本部の資産運用収入を繰り入れていますが、上記賦課金収入と支出を賄えるのが理想的です。皆様のご協力に感謝しながら、今後とも尚一層ご協力下さいますようお願いいたします。

教区の諸種の理由から、ご報告がおそくなりましたがご了承お願ひいたします。

1993年7月3日

京都教区事務所

斎木嘉作

京都教区 NICE準備委員会

(1) NICE担当者会議

5月22日、23日に名古屋の日本カトリック研修センターにおいて、NICE II担当者会議が開かれました。京都教区からは代表者の藤村嘉彦と柴田敦代の2名が出席しました。

各教区の中間報告と、長崎会議のあり方について話し合われました。各教区から「分かち合いが難しい」という報告が出されました。各教区から「分かち合いによる実りも報告され、「分かち合いによる共同体づくりの取り組みをこれからも続けていこう」ということが確認されました。

全國会議のあり方については、6月末の司教会議において最終決定がなされます。担当者会議においては、各教区における取り組みの報告と、今後の展望を明らかにする場としたい、という希望がだされました。

(2) NICE IIアンケート

担当者会議で、9月上旬に各教区の課題への取り組みについての

報告を提出することが決められました。これを受けて、京都教区では、各教会、修道会にアンケートを送させていただきました。アンケートをもとに、京都教区におけるNICE IIの取り組みについて報告されます。各教区から集められた報告が長崎会議での資料となります。

(3) 新しいパンフレット

新しい水色のパンフレット「どうもNICEが分からぬ」をぜひご活用ください。また、京都教区作成のビデオの方もご利用下さい。ようお願いします。

ナイスIIへの歩み

京都南部担当 柴田敦代

京都南部では2月に22の小教区がどの様にNICEに取り組み、分かち合いのあつた教会がどんな話し合いをしたか、これからのお話等のアンケートをお願いしたところ、次の様な回答をいただきました。グループは壮年、婦人、青年、聖書研究の会、活動のグル

ープ等に分かれて分かち合つていただいている事がわかりました。

いう間の2時間でした。

それから去る5月13、14日に第

19回日本カトリック女性団体連盟広島大会が世界平和記念聖堂に於て、南は沖縄から北は北海道の全国の女性が16教区より約500名が参加した。三木司教様の基調講演の後、NICEに関わる分科会があり、また神父様多数参加のもと親睦会もありそこに暖かい家庭を感じ同じ信仰をもつ者同志の喜びを感じました。

その後1泊目の小旅行として津和野、乙女峠を巡礼、殉教した犠牲者の深い信仰を目のあたりに感じ全国からの参加者と共に福音宣教的な雰囲気を互いに確かめ合いました。

5月に南部信徒協議会の評議員会があり各小教区の評議員がNICE IIの担当者になっていた大くことが承認された。また5月末にNICE IIのビデオ(司教様出演)が出来たのを各小教区全部に配布し、それぞれ参考にしていただきている。

これからも教会がある限り福音宣教は続きます。洗礼志願者や初めて教会を訪れる人々に信仰をもつ者の喜びを愛をもつて接する事によって教会という家庭の中の分かち合いも生きて来るものと信じます。10月にある全国会議には京都教区の人の声を受け留め分かち合いに参加して参りたく思っています。よろしくお願いいたします。

また去る7月11日に南信協後援で、河原町教会地下ホールにて大阪教区NICE II担当司祭明石健次神父様のNICEについての講演があり多数参加のもと、あつと

1992年度
京都ウォーカソン報告

大変遅くなりましたが、この場をお借りして、去年のウォーカソンの報告をさせていただきます。

皆さんのご協力により、募金総額は左記の通り、280万円を越えました。このうち、ブラジル農業センターへ150万円、パレスチナ子供のキャンペーンへ130万円を寄付しました。募金してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

円は野中神父（広島教区）が研修センターで勉強する生徒を募集するなどの仕事に使用するための自動車の購入資金に充てていただきました。

また、パレスチナへは「パレスチナ子供のキャンペーント」事務局に送金いたしました。ガザの難民の子供たちのころうあ学校のために使つていただきま

ます。

(((((((お))))))) あんてな

した。ガザの難民の子供たちのろ
うあ学校のために使つていただき
ます。

ブラジル農業センターへは、岡山教会の原田神父へ送金し、今年の3月2日にブラジルへ持参していただきました。そしてブラジルの農業センターの実際の責任者である佐々木神父（横浜教区）に手渡していました。150万

ウォーカソン会計報告

繰 越 金	112,556
寄 付 金	2,835,008
(うち滋賀県分	325,068)
計	2,947,564
印 刷 費	-23,381
保 険 料	-8,205
差 引 合 計	2,915,978
プラジルへ	1,500,000
パレスチナへ	1,300,000
次年度へ繰越	115,978

ご協力
ありがとうございました。

在は、安土町により記念公園として整備されています。私達は、この地で学び殉教していった三木パウロや福永ニコライらを記念し、この記念公園で毎年野外ミサ、合同堅信式を行なつてねるごとに、日頃あまり顔を合わはない、他の小教区の方々と年に

て1581年に我が国最初の神学校が創設された地であります。そなへるごとに、日頃あまり顔を合わさない、他の小教区の方々と年にして整備されています。

本年は安土町の主催で行われて
います「フェスティ信長」の行事と
日程を合わせたため、安土町界わ
いは大変にぎやかでした。公国の
前の通りを、武者行列の騎馬武者
やバスバンドが通つたり、歴史
ウォークの一行が通つたりしまし
た。また、私は準備に追われて寄
ることができませんでしたが、近
くの安土マリエートでは大バーベ
キュー大会やフリーマーケットが
行われており、上手に計画すれば
一日有意義に使える日程であつた
ようです。

行われました。当日の参加者は約300名、受験者は34名でした。また、ミサ中献金は、教区事務所を通して邦人司祭育成のために捧げられました。

一度の交流の場としての役割を持つようになってきました。



安土セミナリヨ

記念ニサ報

